

市井の風景と市電

市電への愛や、思い出を語って頂くこのコーナー。

第8回は挿画家の椎名次郎さん。

「やっぱり札幌は時計台でも大通公園でもなく、市電です」という台詞に愛を感じます。



★椎名次郎さん作、2012年カレンダー「札幌市電日和II」を10名様にプレゼント!詳しくは最後のページをご覧ください。

市電



vol.8



—椎名さんと市電との出会いはいつですか?

地方から出てきて初めて乗ったのが18歳のときです。電車に乗っているのに、車窓から見える風景は車やバスに乗っているような距離感で、それが不思議で面白かった。昔から絵は描いていましたが、モチーフとしては、そこに暮らしている人の生活が見える市井の風景を描きたいので、札幌に住むようになってからも路地へ路地へと入っていきました。やっぱり札幌は時計台でも大通公園でもなく、市電だと思います。

—椎名さんが描く市電は、古い型の車両が多いですね。

昭和に作られた、丸っこい車両が好きなんです。ラッピング電車は、平成に入ってから製作された車両だけにしてほしい。沿線は古い建物を壊し過ぎだと思います。年々描くべき場所が少なくなっている。それでもまだ、南一条線は三吉神社や後藤会館、三誠ビル、純喫茶『声』など、要所要所に良い場所がありますね。

—長年描き続ける中で、印象に残っているエピソードは?

南一条線の近くにオーダーワイシャツの専門店があるのですが、その建物を描いているときに店主と話す機会があって。後日絵ハガキにして持っていったら、お礼にワイシャツを作ってくれました。初めてのオーダーワイシャツで、嬉しかったですね。あと、昨年のカレンダーに純喫茶『声』を登場させたのですが、お店の方がとても喜んでくれて。映画『探偵はBARにいる』

で『声』の店内が写ったとき、そのカレンダーもそのまま収められていて。プロデューサーの方が私の絵を前から知っていて、画面に出してくれたんです。それには感激しました。

—新型低床車両のデザインや、ループ化が発表されました。市電ファンとしては、今後どのようになってほしいですか?

全部の車両が新しくなったら、描く気がしません。昭和の車両をどれだけ残せるかが課題ではないでしょうか。カッコ良くても無駄なものこそ残してほしいです。そして、電車通りを走る車はせめて右折禁止にしてほしいです。私も車を運転しますが、電車通りは努めて並走しません。ドライバーは市電に対して礼節を持ってほしいと思います。今後については、今まで個展や宣伝はしても、自ら売り込むような営業行為はしてきませんでした。それより一枚でも描き、一本でも線を引くほうが大切だと思っています。これからもフリーランスの矜持を保ちたいと思います。

椎名 次郎

生年出生地不明。映画館勤務を経てフリーの挿画家。東京や道内各地の路地に出没し、描き歩く。

<石の蔵ぎゃらりいスケッチ教室>

昼の部：毎月第2、第4木曜日/10時~12時

夜の部：毎月第1、第3木曜日/18時~20時

受講料：入会金無料1回1,500円

会場：石の蔵ぎゃらりいはやし（北区北8西1）

昼の部の春から秋までは野外スケッチに出かけます。冬場はドリンク付き。お申し込みは、札幌グラフィコミュニケーションズ（011-887-6466/担当・荒井）まで。